

シリーズ第36話

狭心症と心筋梗塞

くどちらも心臓の病気!?

狭心症、そして心筋梗塞。心臓の病気として皆さんによく知られています。病気の説明の前に、心臓という臓器について説明したいと思います。

心臓は全身に血液を送る臓器で、胸の中央に位置しています。大きさは成人で握りこぶしくらいの大きさがあり、重さは250グラム前後。その小さな臓器が60キログラムの体を維持するために、1日では7リットルも血液を循環させて、全身の隅々まで血液を送り込んでいます。心臓専門の科を循環器科というのは、こういう理由なのです。

その心臓が動くためにはエネルギー、すなわち血液が必要です。心臓は大動脈という大きな

血管に接続していますが、その大動脈と心臓が接続している部分から心臓を覆うように血管が張り巡らされています。まるで王様の冠のように心臓を覆っていることから、心臓に血液を送ってくる血管のことを「冠動脈」といい、「冠動脈が傷んでいる状態を「動脈硬化」といいます。冠動脈を水道管に例えたと動脈硬化は「水アカ」みたいなものです。その動脈硬化は生活習慣病や喫煙が原因となって、血管に蓄積していきます。

心臓は安静状態で一分間に60回動いています。人間が歩くこととすれば、心臓はさらに動くことを要求されて、心拍数は徐々に増えていきます。心拍数が増

えるということは、エネルギーとしての血液がたくさん必要になります。心臓の心拍数がある一定以上になると、人にそれ以上動かないように心臓が出すサインが「狭心症」なのです。症状は胸部圧迫感、動悸といった胸の違和感から左肩の痛みなどの違和感や上腹部の痛みと多彩ですが、共通する点は、「症状が出て安静にしたら十数分で速やかに症状がなくなる」ということです。安静にして心拍数が低下したら、心筋への血液の供給が間に合ってくるからです。

「狭心症」の実態は「冠動脈のトラブル」です。その狭心症の状態では心臓の病気ではないので、心臓自体は元気に動いてい

ます。しかし、冠動脈が完全に詰まってしまふような出来事になると、途端に心臓病の「心筋梗塞」になります。心筋梗塞とは、「心臓の一部が冠動脈から血液が供給されなくなったため壊死した」病気で、心臓の壊死した部分が急に動かなくなる病気で、この病気が発症した瞬間に突然死に移行することがある怖い病気です。

大事な臓器に悪影響を及ぼす病気を発症しないようにするには、生活習慣病をコントロールすることが大事になります。急病にならないように、日ごろから健康管理をしていきましょう。



市民病院 総合内科
いしぐろゆういちろう
医長 石黒裕一郎